

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に提示して共有し常に心がけています。カンファレンスで職員全員で話し合いケアについて統一を図っています。	「その人らしく生きてほしい」他、4項目からなる法人の理念についてホール内に掲示するとともに2ヶ月に1回発行される「まんでん新聞」にも掲載し、来訪者や家族の目にふれるようにしている。職員は40歳代～70歳代と年齢も幅広く、勤務年数も殆どの方が5年以上と経験も豊富でありカンファレンス等で話し合いを重ね利用者がストレスを溜めることなく楽しい日々を過ごしていただけるよう気持ちを一つにし支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を作成し回覧をお願いしています。行事を行う時は通知しています。新型コロナウイルスの影響を受け、全ての活動が出来ていませんが収束後は再開します。	開設以来地域に密着したホームとして自治会費を納め地域の一員として活動してきたが、現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け全ての活動が出来ないという残念な状況が続いている。そのような中、近所の2～3軒の住民の方とは日々の犬の散歩時や冬の雪かきのお手伝い等で交流したり、年2回実施される防災訓練にも参加していただき関係が途切れないようにしている。新型コロナ収束後には様々なボランティアの受け入れや町主催の行事への参加等、新型コロナ以前の活動を積極的に行う予定を立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症関連講習会を開催します。運営推進会議で話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告をして意見要望等を聞き話し合いサービス向上に努めています。新型コロナウイルスの影響を受けて運営推進会議は行っていませんが、収束後は再開します。	この2年あまり、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け「会議資料」と「まんでん通信」をお届けしての書面での開催となっていたが、最近の新型コロナウイルス感染の落ち着いた見えて7月より家族代表、自治会長、隣組組長、民生委員、消防団長、駐在所署員、町役場担当者、ホーム関係者の出席で対面での運営推進会議を行う予定を立てており、新型コロナウイルス感染拡大以前のようなご意見を頂く場としてサービスの向上に繋げて行く意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時、担当者で連携を取っています。書類提出等は郵送ではなく直接担当者に届けるなどして話す機会を作っています。	町役場高齢福祉課、地域包括支援センターとはきめ細かく連携を取り、利用状況や待機状況の確認、新型コロナの感染対策等、様々な事柄について相談している。合わせて他事業所との待機者状況等の情報交換も地域包括支援センター等を介して行っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し家族、職員、立会いの下、実施している。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて提示しています。 ご家族とその都度話し合い相談しています。 カンファレンスで職員全員で拘束に対する意識を高め学習をしています。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。 玄関は日中開錠されておりドアの開閉でチャイム音がするよう工夫し安全確保に努めている。外出傾向や帰宅願望の強い利用者は現在おらず、職員は利用者の様子を見ながら話をしたり付き添いながら散歩したりしている。また、ベットより転落することが危惧される利用者があり家族と相談しベット下にマットレスを敷いて対応したりしている。年2回法人内で身体拘束の研修会を行い意識を高め、拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで職員全体で学習しています。 虐待防止の徹底について提示しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用していませんがカンファレンスで復命しています。 今後活用できるように学びたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し同意を得る様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に現在の様子等を連絡し訪問時等に意見要望をお聴きしたり話を伺うようにしています。ホーム便りをお届けしお知らせしています。	家族との面会はこの2年余り新型コロナ感染拡大の影響を受け窓越しで行っている。そのような中、2ヶ月に1回発行される「まんでん新聞」に全利用者の写真とホームの様子を掲載してお知らせしている。合わせて家族と電話できめ細かく連絡を取り合い、日々の様子を映した写真に一言添えた手紙を毎月の請求書の中に同封し家族に届け喜ばれている。また、最近の新型コロナの感染の落ち着きを見て、7月より対面での面会を再開する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を聞くようにしています。 管理者は常に意見や提案を話しやすい環境の整備に努めています。	毎月28日の19時より職員ミーティングを行い、利用者一人ひとりの状況確認、活動状況の確認、意見交換、各種提案、「言葉遣いの確認」などの勉強会等、必ず一人一発言するよう働きかけ、一つのチームとしてアットホームで温かなホームとなるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調管理には十分注意しています。 職員それぞれが意見要望等を話しやすいように環境の整備に努めています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には案内等を提示し、出来る限り参加できるようにしています。 ミーティングでも報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り機会を作っています。 サービスの向上を目指しています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の様子を見たりお話しています。 ホーム内の見学もしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすい環境作りにも努め、これまでの経緯などをゆっくり聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の思いを聴きながら信頼関係を築くと共に必要としているサービス支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが笑ったり喜んだり悲しんだり、困ったことを感じ合い、時には人生相談をしたり助言を頂いて信頼関係を築くと共に、共働きながら生活するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響を受けて面会はお断りしていますが、窓越しでの面会で絆を大切にしています。収束後はイベントを計画し参加していただける様にしていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響を受けて窓越しでの面会で関係が途切れない様に支援に努めています。地域のスーパーまで職員と共に買い物に出かけています。	対面での面会は自粛しているが、親戚、友人の方が窓越しでの面会に訪れている。また、最近の感染の落ちつきを見て感染対策を十分取った上で職員と近くのスーパーおやつなどの買い出しに出掛けている。筆字が達者な利用者もあり、年末には手作り年賀状を作成し家族あてに発送し喜ばれている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	居室に入る時間以外は共同スペースで職員も一緒 に過ごしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	外でお会いするとお互いに声を掛けたりホームに 電話をくれています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい環境作りに努め、会話の中から思いや 意向を聴けるようにしています。	多くの利用者は言葉で意思疎通ができ、若干名の方 が問い掛けに対して意思表示の出来る状況である。 職員は利用者一人ひとりの思いを把握しており希望に 合わせて買い物に出掛けたり、散歩に出たり、折り紙、 パズル、ゲーム等にも取り組んでいる。遠慮がちな 利用者があるがパット交換等の際には気を遣い気持 ち良く過ごしていただくようにしている。日々の気づ いた事柄については日勤帯は黒字、夜勤帯は赤字で 個人記録として纏め、朝の申し送り時に確認し日々の 業務に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に出来る限り教えて頂いたり、ご本人との お話の中から聴き出しています。話しやすい環境 作りにも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事・嬉しい事・嫌な事・困 っている事など普段の生活や会話の中から見 つけ出して記録し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現 状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでケアのあり方など意見交換 したり連絡ノートを活用しています。状況に 変化が見られた時には随時見直しをして 利用者一人一人に合った支援に繋が ています。	カンファレンスの席上、個人記録、連絡ノートを 参考に全職員が意見を出し合い、家族から 聞いた希望も参考にケアマネジャーが プラン作成を行っている。入居時は 短期1ヶ月でのプランを作成し様子 を見ている。その後、基本的に6 ヶ月でプランの見直しを行い、 状況に変化が見られた時には 随時見直し、一人ひとりに 合った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にご本人の言葉・エピソード などを記入しています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や病院受診など外出には柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の消防・警察・民生委員・地域の役員の方々などをお願いしホームの理解を頂き協力して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族の要望に応じ職員同行又は代行しています。情報共有も、日々の健康管理に合わせ医師との連携を取り万全な医療体制を整えています。一カ月に一回の往診も行っています。	入居時に医療機関についての希望を聞いていますが現在はホーム協力医の月1回の往診で対応している。5月より非常勤の看護師が勤務しており利用者一人ひとりの健康管理と合わせ医師との連携を図り万全な体制を取っている。また、緊急時には管理者と看護師に情報が一本化され、素早い対応に心掛けている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しています。24時間連携が取れる様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し退院までの間ご家族や病院と連絡を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族に説明し方針を話し合い、重度化に伴う同意書を頂いています。看取りについての心構えの研修を行い看取り支援に備えています。	重度化、終末期に向けたホームとしての指針があり利用契約時に説明し、それに沿った対応について同意を頂いている。開設以来終末期支援を行っており、殆どの利用者や家族より最後まで「まんでんでお願いします」との話を頂いている。終末期に到った際の主治医の往診時に家族、管理者、看護師で話し合いの場を設け医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に1名の看取りを行い家族より感謝の言葉を頂いている。看取り後は反省会を行い経験を次に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急は講習会を受けています。マニュアルなどに表示しています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員の方の指導の下、利用者さんと共に避難訓練を行っています。	年2回、消防署と防災会社の協力を得て防災訓練を行っている。火災を想定しての水消火器を使っての消火訓練、利用者全員外へ移動しての避難訓練、緊急時に備え消防署員指導の下「AED」の使用訓練、夜間想定での緊急連絡網の確認訓練等に合わせて防災会社によるスプリンクラー等の防災機器の点検が行われている。また、当ホームがこの地区の避難場所にもなっているので日頃付き合ひのある2軒の近隣住民の方にも参加をいただき緊急時の協力体制についての確認を行っている。備蓄として「お米」「水」「お茶」「レトルト食品」等が準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上から目線にならない様に気を付けています。 本人の気持ちを大切に考え、声掛けをして、寄り添い、支援するようにしています。	「親しき中にも礼儀あり」でアットホームな雰囲気を大切にしながら言葉遣いには特に気配りをし気持ち良く過ごしていただけるようにしている。入室の際にはノックと声掛けを忘れないようにしている。また、声掛けについては希望を聞き、「苗字」か「名前」に「さん」付けでお呼びしている。カンファレンスの席上プライバシー保護に関する確認をし合い寄り添う支援に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声掛けをして、表情や気分を読み取ったり、日々の会話の中で働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしてきたかを把握して、一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせて生活して頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人は自分で選び替えて頂き、身だしなみも見守りで整えて頂いています。出来ない人には一緒に着替えて身だしなみも整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の管理栄養士が立てたものを用い、調理職員2名が昼食・夕食を調理してお出ししています。お手伝いは力量に合わせて参加して頂いています。テイクアウトもして楽しみなものになる様に支援しています。	食事の摂取については自力の方が大半で、数名の方が全介助で、食形態についても常食の方が半数強、トロミの方が三分の一、おかゆの方が若干名という状況である。新型コロナ感染レベルが高どまりの時期には時間をずらして食事を摂っていたが現在は職員も共に食事を楽しいひと時を過ごしている。献立は法人の管理栄養士が立てたものを調理職員2名が昼食と夕食を作り、朝食と日曜日の調理は職員が調理している。年末年始やクリスマス、ひな祭り等の行事には季節に合わせたものを提供し、年3～4回は郷土料理の五平餅を楽しみ、2ヶ月に1回は利用者の希望を聞き「かつ丼」「親子丼」等をテイクアウトし楽しんでいる。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と摂取量を把握し看護師とも相談しています。入所時にご本人に好きな物・嫌いな物を聴いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしています。出来ない方は口腔ケア用のウェットティッシュでケアしています。毎日義歯の洗浄を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄記録を取り、パターンや習慣を職員全員で共有し把握して支援しています。現在一部介助の方3名、全介助の方6名という状況です。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、情報として全職員で共有し、基本的には起床時、食事前、おやつ前、就寝前など、一日6回の定時誘導を行うことで排泄に繋げ、気持ち良く過ごしていただくようになっている。排便については3日間排便が無い場合は看護師が排便コントロールを行い、お茶、ヨーグルト、ヤクルト等の水分摂取を勧めることで排便促進を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄記録を取り看護師・介護職員・調理職員で共有し予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一部介助の方4名、全介助の方5名という状況です。大半の方がリフト浴使用となっています。体調や気分に応じて配慮しながら支援しています。	自分で体を洗える方もいるが三分の二の利用者がリフト浴での入浴を行っている。入浴拒否の方はおらず週2~3回入浴を行い、入浴後にはスポーツドリンク等を楽しまれている。また、季節に応じ「菖蒲湯」「ゆず湯」「リンゴ湯」等を楽しみ、気分転換を図るために入浴剤入りのお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩したい時に居室や共同スペースで自由に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスなどで様子を確認し看護師と連携しています。連絡帳など活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとなどを見つけ一緒に楽しみ気分転換をしています。出来る事も一緒に見つけ声掛けしてお願いしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの状況が続いていますが出来る限り戸外へ出かける様に支援しています。(ドライブ・買い物・花見等) 天気のいい日には散歩や日光浴をしています。	外出時に歩行者を使用する方が三分の一、リクライニング車いす使用の方も含め車いすの方が三分の二となっている。天気の良い日には職員と共にホームの周りを散歩したり玄関先に花を植えたり、家庭菜園で作物を見たりして外気欲を楽しんでいる。新型コロナ禍の中、感染対策を取りながら月1回は外出し、桜や花桃等、季節に合わせたお花見ドライブや道の駅でソフトクリーム等を食べたりして楽しんでいる。また、現状、新型コロナ感染の落ち着きを受け、おやつ等の買い物にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望があれば自由にお話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節を感じられる物を飾ったり置いています。 温度湿度計で管理しています。 利用者様の声に耳を傾けています。	綺麗に整理整頓された玄関を入ると職員が生けた見事な季節の花々が迎えてくれる。平屋造りの当ホームは表玄関、北側玄関、裏玄関の3ヶ所の入口があり防災に配慮された造りとなっている。一日の大半を過ごすホールは天井が高く開放感が漂い、その一部の畳スペースには季節の飾り付けがされている。また、ホームの裏庭には広々とした家庭菜園用の畑がありジャガイモ、きゅうり等、夏野菜が栽培され利用者の癒しの場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き場所作りをしています。共同スペースには畳のスペースがあり自由に過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持ってきて使用して頂いています。	広々とした各居室は整理整頓が行き届き清潔感が漂っている。パット等の排泄用品についてはカーテンで覆い家族に見えない工夫している。持ち込みは自由で、家族と相談の上、衣装ケース、整理タンス、テレビ等が持ち込まれており利用者一人ひとりの生活の場となっている。空調として床暖房とエアコンが設置され快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープ、滑り止めなど取り付けています。		